

学力向上に効果のある取組事例

中津市立三光中学校

⑰ 校内研修などによる授業改善

取組の具体①

○「授業改善」と「教師のスキルアップ」のハイブリット型研修

研修①「人間関係づくりプログラムについて」

②「みんな活躍授業 模擬授業」

③「ジグソー法を取り入れた、みんな活躍授業を実践するうえでの悩み解決」

④「互見授業週間と振り返り」

⑤「朝の会、帰りの会参観」

・「授業改善は、教師自身のスキルアップから」

互いに学び合える雰囲気づくりと、若手教員のスキルアップを目的としたOJT研修を意図的に仕組む。

・1回30分から1時間程度の研修を月1回程度行い、そこで得た学びを自身の授業実践に取り入れられるようにする。

・研修テーマは、日頃の授業で実践しやすいものにする。

・互見授業週間は、公開授業をホワイトボードへ記入し、「1日1回15分」を合言葉に授業参観を促す。

・学年やクラスを超えた「授業参観」「朝の会、帰りの会参観」の実施。



取組の具体②

○「知識習得型」と「生徒主体型」のハイブリット型授業

【知識習得型授業】

授業開始5分の帯活動
板書の構造化
見通しの持てる授業計画

【生徒主体型授業】

役割、意図を明確にしたコミュニケーション活動
班長のファシリテート
コミュニケーションシートの活用

・単元構想の段階で、どちらの授業をどこで行うかを定める。ねらいを明確にした授業づくりを行う。

・授業開始5分の帯活動は、知識を定着させるために各教科でさまざまな工夫を凝らしている。

・毎週月曜日と第1水曜日に「コミュニケーションタイム」を設定し、人間関係づくりプログラムを全校で実施する中で、コミュニケーションの方法を学ばせる。

・コミュニケーションタイムで身に付けた方法を授業や日常生活の中で実践できる場を設定する。

・班長をファシリテーターとして育成し、生徒主体で班活動や学級会、行事などが運営できるようにする。

